

この土地で生きていく。その喜びを、つないでいく。



尾道市瀬戸田町。生口島と高根島、2つの島からなるこの町の特産品であるレモンに、あたらしい眼差しと情熱で光を当てる人たちがいます。

「子どもの頃からレモンが大好きで。果物としての可能性を感じて、移住してきたんです」そう語るのは、3年ほど前に関東から移り住んだ齋藤明美さん。レモンカードやジャムのブランドAKEMILEMONを立ち上げました。「いずれは自分でレモンを育てることに挑戦していきたい」。レモン料理のレシピを考案し、活動拠点「ごちそうの森」でのワークショップなどを通して広める長光祥子さんは言います。「レモンの魅力をもっと伝えたい。その一心です。果汁だけじゃなく食材としての面白さを知ってもらえたら、レモンをもっと好きになってもらえるはず」。

パティシエの原山奈美さんは、島のレモン農家から舞い込む「規格外の果実をどうにかできないか」という相談に、お菓子などの加工品化を提案することで応えます。「レモンはつくっているけど自分では使わない、という人もたくさんいるんです。農家の方々にこそ、もっとその価値に気づいてほしい」。大切なレモンを未来へ。その思いは今、島のみんなへと広がっています。

この土地で生きる喜びを、自分たちの手でつくり、育て、そして、つないでいくこと。それはきっと、明日を変える力になる。



瀬戸内海の島々をつなぐ「しまなみ海道」のほぼ真ん中に位置する生口島と高根島。年間を通して温暖な気候で、日本有数のレモンの生産量を誇り、「レモンの島」とも称される。

2024年、共に創る。共に生きる。
大和ハウスグループ

